

□議員名：中島 好人

1 若年がん患者の支援について

論点	若年層 20 歳から 39 歳までは、介護保険の対象とならないため、福祉用具などのレンタル料や訪問介護など実費となる支援が必要であるが、どのように認識しているか。
回答	国や山口県のがん対策推進計画においても、AYA 世代のがん患者の方を含めた若年がん患者の方への対策が求められていることから、市としても、がんになっても仕事との両立ができ、自分らしく安心して過ごせるような支援が必要であると認識している。

論点	宇部市では、「若年がん患者の在宅支援助成事業」があり、1 か月 5 万 4 千を上限に福祉用具などのサービス料の 9 割を助成している本市においても同様な助成制度の創設をすべきである。
回答	若年がん患者の方が住み慣れた自宅で、自分らしく安心して生活が送れるよう、身体的、精神的、経済的な負担を少しでも軽減できればと考えており、しっかりと実態を把握して、助成事業、必要な支援について検討していく。

2 学校給食費の無償化について

論点	現在、物価高騰で子育て世代にとって給食費が重い負担となっている。そうした中で、学校給食無償とする自治体がこの 5 年間で 76 から 224 と 3 倍化している。そうした実態を把握しているか。
回答	最初は人口の少ない都市から無償化が開始され、今現在は全国的に広がり、人口の多いところも実施していることは承知している。

論点	子供に掛かる経費は、小学生で約 32 万円、中学生で約 49 万円です。憲法第 26 条第 2 項の義務教育は無償とするの原則の下、学校給食の無償化をすべきである。
回答	無償化の効果は十分に理解しているが、相当な財源が必要となりますので実施は難しいと考えている。引き続き経済的な理由により納付が困難な世帯に対しては、生活保護や就学援助費等で支援してい

<。